

令和7年度

平塚市自動運転バス実証実験

実施内容について





図 構想イメージ

持続可能な地域公共交通の実現にむけて、運転士不足が大きな課題となっている中、既存バス路線へ自動運転車両を導入し、限りあるドライバーを再配置することで、バス路線の確保・維持及び改善につなげていきます。

具体的には、自動運転バス実証実験対象である平塚駅南側エリアの平15系統を自動運転バスに置き換え、将来的には周辺のバス路線(平塚駅南側エリア)を自動運転バスに置き換えていきます。

捻出した人的リソースを、平塚駅北側エリアに再配分等を行うことにより、本市全体の既存路線を確保・維持していきます。

■ これまでの主な実施内容

いずれの車両も、いすゞ自動車(株)により自動運転を前提とした仕様です。



2023年度(令和5年度)

- ・ 平塚市内初の実証実験
- ・ 基本的な検証と遠隔監視の実施
- ・ 一部で信号連携を実施



2024年度(令和6年度)

- ・ ルート上のほぼ全ての信号機で信号連携
- ・ 一部区間で路駐車両の自動回避を実施
- ・ バス停からの自動発車を実施
- ・ 一般試乗の実施
- ・ 駅前ロータリー内に自動運転バス待機場を整備



2025年度(令和7年度)

- ・ 「エルガEV 自動運転バス」を全国で初めて採用
- ・ ほぼ全ての区間で路上駐車自動回避を実施
- ・ 完全キャッシュレスによる有償運行
- ・ AI判断によるドア自動開閉
- ・ 日没後の運行

■ 実証実験のルートについて

4

■ 運行場所等

- ・ 対象区間:平15系統 平塚駅南口～すみれ平～平塚駅南口(平塚駅南口循環)
- ・ 運行距離:4.3km
- ・ 自動運転レベル: レベル2

■ 実証実験期間

【2023(令和5)年度】

2024年1月22日～2月2日(うち平日10日間)

【2024(令和6)年度】

2024年12月24日～26日、2025年1月8日～20日
(うち平日、土曜、祝日の14日間)

【2025(令和7)年度】

2025年12月16日～26日、2026年1月8日～21日
(うち平日、一部土曜を含めた20日間)



<凡例> ♀ 乗降バス停 ●●● 信号連携交差点 ★ 神奈川中央交通(株)本社

■ エルガEV 自動運転バス



自動運転レベル	レベル2
車両寸法	長さ10,740mm 幅2,485mm 高さ3,300mm
乗車定員	68名(運転席含め座席は20席) ※一般運行時の旅客定員は、19名(着席)
最高速度	実証実験時上限 40km/h 走行



◎ LiDAR

「Light Detection And Ranging」の略。レーザー光を照射し、その反射光をもとに対象物までの距離や対象物の形を計測。主に、自車位置推定や障害物検知に使用します。



◎ ミリ波レーダ

ミリ波帯の電波を利用して対象物との距離を計測するもので、遠方から接近する車両の検知などに使用しています。



◎ カメラ

明暗差の大きな環境でも高画質な撮影が可能。車両の各部に設置され、物体認識や信号認識、遠隔監視などに使用します。

■ エルガEV 自動運転バス



ジャパンモビリティショー2025 世界初公開の様子（写真提供:いすゞ自動車株式会社）

※平塚市使用車両とは外観が異なります。

■ 令和7年度の特徴的な取組み



完全キャッシュレスによる有償運行 : 平15系統で営業運行を実施(要事前予約)



路上駐停車の自動回避 : ルート上のほぼ全ての区間で自動回避を実施



夜間走行 : 日中に加え、夜間の運行(日没後~20時頃まで)



ドアの自動開閉: 遠隔監視システムと連携してドアを自動開閉

《完全キャッシュレスによる有償運行》

- 平塚駅南口エリアで実施している完全キャッシュレス実証実験と同様に、本路線も完全キャッシュレスによる運行を実施しました。

（交通系 ICカード、クレジットカード等タッチ決済、二次元コード決済に対応）



《路上駐車自動回避》

- これまでの県道608号に加え、市道など片側1車線区間を含めたルート上のほぼ全ての区間で路上駐車自動回避を実施しました。



《夜間走行》

- 低照度環境においても、各種センサを活用し、多様な時間帯での運行可能性を検証しました。



《ドアの自動開閉》

- 将来的なドライバーレスでの運行を見据え、遠隔監視システムのAIが状況判断し、ドアを自動開閉しました。

【遠隔監視システム(AI)による安全確認内容】

ドア付近の安全確認、乗降完了確認、乗客の移動・転倒検知





令和7年度実証実験の結果については、取りまとめ次第、別途お知らせします。

引き続き、2027年度(令和9年度)を目標に1路線で自動運転レベル4を実現することを目標に事業に取り組み、営業路線の自動運転化という、他地域のモデルケースとなるよう進めていきます。